

□はじめに

世界陸連 (WA) の修改正は、毎年 8 月の Council (評議会) で決定した後に 11 月から実施され、それを受けて日本陸連 (JAAF) で修改正を行い、4 月から国内適用という流れで従来実施してまいりました。しかし、最近の WA は年 3 回程度行われる評議会の都度に決定し、即時実施が多くなっております。基本的には国内における修改正は 4 月に実施されますが、WRk 関連のものを中心に、国内においても即時実施の修改正が行われる可能性もあります。競技会に参加の際は、競技注意事項や当陸協 Web、日本陸連 Web に告知される文書を確認されますようお願いいたします。

○CR34.10 [注意] 日本記録の記号

WA は 2024 年 1 月から各国のナショナルレコードは WRk 大会でマークされた記録のみを新たに認定すると決定したが、JAAF は非 WRk 大会でマークされた記録も日本記録と認定することに変更はありません。このため WA が認める記録と JAAF が認める記録が一致しないケースが発生します。そのため、2024 年 1 月以降の記録で非 WRk 競技会でマークされた日本記録が WRk 競技会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて区別することにしました。(それ以前の記録で、引き続き日本記録であるものには略号なし)

(W) : WRk 競技会でマークされた日本記録 (J) : 非 WRk 競技会でマークされた日本記録

○TR8 抗議と上訴

上訴を行うことができるのは、ジュリーが置かれている競技会のみになります。

○TR11.4 [国内] 上位大会進出のため追加試技を行った際の記録の扱い

上位大会進出のための追加試技を行った場合、追加試技の順位は本試技の順位には無関係ですが、これまで追加試技の記録の扱いが明示されていませんでした。上位大会出場者の選出方法は主催者判断で決定し(抽選、追加レース、追加試技のいずれでも可)、追加レースや追加試技で達成された記録は、個人(チーム)の最高記録、ランキング、参加標準記録といった目的では有効なものとして取り扱われます。

○TR17.15.3 トラック競技における給水・スポンジ(明確化)

主催者が設置した供給所だけでなく、スタート地点から持ち込んだり、いつでも手に持ったり身体につけたりして競技を行ってもよいことが明確化されました。

○TR24.5 リレー(明確化)

競技者はバトンを受け取りやすくする目的で手袋をはめたり、TR6.4.3 で認められた以外の何かを手やバトンに付けたりすることはできず、従わない場合は失格となることが明確化されました。

○TR26.9.5 [国内] 上位大会出場枠決定のための試技方法(高さを競う跳躍)

インターハイ予選等、上位大会進出枠の人数が決まっているのに同順位競技者が複数いて進出枠数を超える場合、上位大会進出のための「別競技会」扱いとして対象者で試技を行っていましたが、競技規則に定められていませんでした。そのため、「上位大会出場者の最終順位に同順位の競技者がいた場合、その出場者の決定にあたっては、1 位決定のジャンプオフ方式を適用することができる。」と明記されました。しかし、これは主催者判断で「抽選」でも「3 回試技」でも「ジャンプオフ方式」でも可能になるため、競技注意事項に明記されます。

《解説&注意》高さの競技については、もともと 1 位を除いて同順位が生じることがあります。そのため、例えば 6 位が複数名いた場合、その全員が 6 位となり追加試技等の必要はありません。しかし、インターハイ予選の場合「6 名が上位大会に進出」のため、6 人に絞るために選抜する必要があります。今回、その方法が主催者判断で「抽選」でも「3 回試技」でも「ジャンプオフ方式」でも可能になると競技規則に位置付けられました。ただし、その追加試技はあくまでも「上位大会進出のための追加試技」であり、その呼び方は「6 位決定戦」でも「ジャンプオフ」でもありません。(前述の通り、6 位を一人に絞る必要はなく、該当者全員の 6 位は変わらない/ジャンプオフとは「第 1 位決定戦」であり、あくまでも「ジャンプオフ方式による上位大会決定戦」となる)

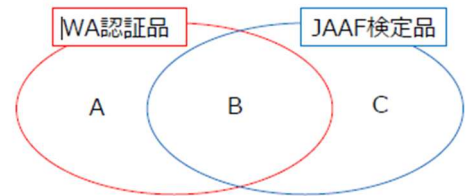


○TR29.9 長さを競う跳躍競技の計測位置（明確化）

従来の「跳躍距離は、身体の一部または身に付けていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線までを計測」から、「着地する瞬間に身に付けていたもの」と明確化されました。これにより、例えば腕時計が外れて砂場に落ちたが身体はその先の砂場に正しく着地した場合、計測する場所は腕時計が落ちた場所ではなく、身体が着地した場所となります。

○TR32.1 WRk 大会で使用する投てき物

従来の「ワールドランキングコンペティションでは WA 認証品のみを使用する」から、「本連盟検定品かつ WA 認証品のみ」となります。（右図の「B」に合致するもの）



《注意》日本陸連認証品のすべてが、WA 認証品ではありません。WRk 大会では WA 非認証品は使用不可となります。なお持ち込みの場合、競技者において WA 認証品かどうかの証明を行うこととなります。

【WA 認証品か否かのチェック方法】


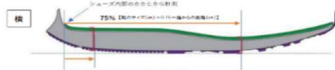
- ① 個別投てき物の印字・貼られたシール
- ② WA の Web サイト掲載のリスト



<https://worldathletics.org/about-iaaf/documents/technical-information>

○TR5.2 競技用靴（再掲…2024年11月1日から新しい表に基づいて運用されております）

《競技用靴・靴底厚さ表》

種目	最大の厚さ	その他の要件／注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
道路競技 (競走・競歩)	40mm	
クロスカンントリー	20mm スパイクシューズか 40mm ノン・スパイクシューズ	

◆承認シューズリストに掲載され、使用開始日を経過し、使用可能種目に該当しているモデルと実際に使用された靴が合致していれば、ワールドランキング対象競技会や靴規程を適用するその他の公認競技会で使用が認めれます。

<https://certcheck.worldathletics.org> (Full List をクリックして全モデルを表示するか、入力欄からモデル名を半角英数字で検索することが可能)

○その他

TR54.1にて競歩競技の標準となる距離が変更されることにより、2026/1 から以下が追加されます。

- ・トラック：ハーフマラソン (21,097.5m) ・マラソン (42,195m)
- ・道路：ハーフマラソン (21 km 0975) ・マラソン (42 km 195)

※これに伴い、トラック：20,000m ・ 35,000m／道路：20 km ・ 35 kmは廃止となります。

TR17.5.1〔国内〕500m ・ 600mの競技方法が、競技規則に明記されました。

- ・500m：完全セパレートレーンで実施、スタート位置の標識が設置されている競技場に限り。
- ・600m：メドレーリレーの1走のスタート位置、800m 競走のブレークラインからオープンレーン。

詳細については、審判講習会資料もしくは2025年度版陸上競技ルールブックを参照されたい。

文責：青柳 智之（日本陸上競技連盟 競技運営委員会 幹事・JTO／長野陸上競技協会 常務理事）

